

海外スタッフからのメッセージ

愛知万博に関するKFEMの活動家からの評価レポート

呉 泰勲 (OH, Jude)

1. 万博全体について

2005年の愛知万博は、来場者に環境に配慮しているというイメージを与えることには、ある程度成功したと思われる。またそれは、商業的な面から言っても非常に収益性のあるものであった。しかし本当に環境に有益であったかは、疑問が残る。さらに海外からのスタッフの多くは、万博が名称通りに“国際的”ではないと感じた。もちろん成功した部分は失敗するよりは好ましいし、地球市民村のコンセプトは新しく、賞賛すべきものであった。事実、地球市民村は、「自然の叡智」というテーマに即した唯一の部分であったかもしれない。このレポートでは、主に地球市民村での出来事を取り上げる。

2. 地球市民村

地球市民村は万博史上初めて、多くの市民団体がアイデアを発展させ、普通の市民と対話をする場所として設けられた。そこで働いたスタッフの1人として、私はこの市民村を高く評価する。全てのメンバーとスタッフがお互いをよく理解して尊重しあい、ワークショップのようなさまざまな活動に自主的に参加した。唯一欠けていたものと言えば、多数の来場者が市民村を訪れたという統計的なデータが出たにもかかわらず、彼らが必ずしも「参加」したわけではなかったことである。市民村に来て辺りを見回し、去っていった人もいる。もしこの場所が来場者にとってちょっとアカデミックで外国っぽい雰囲気があるというだけに過ぎなかったとすれば、スタッフたちの大きな功績は光彩を失う。これはすべてのNGO・NPOに残された課題と言える。

3. 日中韓環境見聞館

私たちのユニットは、万博最後の4週間に地球市民村でパビリオンを運営した。多くの来場者がさまざまなプログラムに参加し、環境問題について深い理解と関心を示した。たくさん子どもたちが積極的にプログラムに参加し、環境問題だけでなく、彼らのまわりの国々に関する情報も得られる機会があったことは、非常に心強い。さらに、万博ボランティアたちが精一杯このプロジェクトを支えていた。長期的に見れば、ボランティアの皆さんが私たちに与えた影響は大きい。私たちが万博後にやらなければいけないことは、万博で見聞館を訪れることができなかった人々に対しても、私たちの活動を普及していくことだ。また、万博での経験を糧にして、今後のサポーターたちにつながる道を開拓しようとさらに積極的に努力すべきである。あらゆるNGOの活動は人々の参加に基づいており、コミュニケーションやアイデアを共有する機会是非常に価値がある。そうした意味で、愛知国際博覧会は少なくとも私たちに良い経験となった。私たちは、この思いをずっと持ち続けなければいけない。

